



中学生が高等工科学校の魅力を体感

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、12月2日（土）、陸上自衛隊高等工科学校（神奈川県横須賀市）で実施された「学校説明会」に中学生とその家族を引率した。

同校は、将来陸上自衛隊において、高機能でシステム化された装備品を駆使・運用する能力を持つ自衛官を養成する学校である。今回の説明会には静岡県内から34人が参加した。

講堂での概要説明後、グループに分かれて校内の各施設を見学した。校内には休日にも関わらずクラブ活動を行う生徒たちの姿が多く見られ、特に銃剣道という武道の練習を見た中学生は「僕も入校したら銃剣道をやってみたい」と話していた。

入校後に勉学に励むことになる教室や日々の生活を送る生徒舎を見学した際には、きれいに清掃され、かつ整理整頓された室内を見て「勉強する環境が整っている」「自分たちが居住する部屋の中もしっかり整理整頓されていて感心する」と中学生の家族が話す場面も見られた。

その後、講堂において質疑応答の時間が設けられ、ステージ上に現役の生徒3人が登壇して参加者からの質問に一つ一つ回答していた。

説明会終了後、保護者は「実際に学校や環境を見て理解が深まった。息子も高等工科学校を目指して頑張ってもらいたい」と一緒に参加した我が子に期待を寄せていた。

静岡地本は、今後も各学校のオープンキャンパスなどの機会を活用して多くの学生やその家族に自衛隊の教育の場を実際に見てもらい、一人でも多くの志望者獲得のため今後も募集活動に全力で取り組んでいく。



中高生に「自主防災隊訓練」で自衛隊をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、12月3日（日）に新天竜川橋北側運動公園クラウンド（浜松市）で行われた「第37回自主防災隊集合訓練」において、航空自衛隊浜松基地（浜松市）の第1航空団とともに広報活動を実施した。

訓練は、午前9時に駿河トラフから南海トラフを震源とする連動型の巨大地震が発生したとの想定で開始された。中高生800人を含む68の自主防災隊のほか、自治体や警察、消防、民間団体など合わせて約2200人が参加し、情報伝達訓練に続き、避難誘導と救出・救護訓練を行うとともに火災発生時の消火訓練も行われた。

静岡地本は、中高生放水体験ゾーン内に第1航空団と隣接して広報ブースを開設し、携行糧食、熊本地震及び九州北部豪雨時の災害派遣活動写真パネルを展示するとともに、迷彩服試着体験や自衛隊への興味や魅力を確認するアンケートコーナーを設け、多数の参加者が訓練の合間にブースを訪れた。

防災や自衛隊の活動に関心のある地域住民に対して、東日本大震災では予備自衛官や即応予備自衛官も災害派遣に従事した実績を伝え、若者には自衛隊の各種募集制度や職種の説明も実施した。

ブースを訪れた参加者からは「これからも市民を守るため頑張ってもらいたい」「自衛隊はさまざまな場所で活躍していてかっこいい。更に興味が湧いた」といった声が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような地域に密着したイベントに積極的に参加して自衛隊の魅力を発信するとともに、災害発生時に迅速に展開・活動する自衛隊の重要性を説明し、意欲ある若者の自衛隊への志願を獲得できるように努めていく。

